

中等教育研究開発室年報 第36号（2023年3月31日発行）別冊電子版  
2022年度 授業実践事例

国語科 中学校第2学年

漢詩の世界を探究する（「漢詩の世界」（三省堂『現代の国語2』））

授業者 増田 知子

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

## 中学校 国語科 学習指導案

指導者 増田 知子

**日時** 令和4年11月26日(土) 第2限 10:35～11:25  
**場所** 第4研修室  
**学年・組** 中学校2年A組39名  
**単元** 漢詩の世界を探究する(「漢詩の世界」(三省堂『現代の国語2』))

- 目標**
- 1 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむ。  
(知識及び技能(3)ア)
  - 2 目的に応じて複数の情報を整理しながら、作品にあらわれた言動の意味などについて考えて解釈する。  
(思考力, 判断力, 表現力等C(1)イ)
  - 3 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。(学びに向かう力, 人間性等)

### 指導計画(全5時間)

- 第一次 「春暁」を読んで漢詩のきまりについて学習する。  
作者はどこで何をしているのかを考えた後に、作者孟浩然についてGIGAパソコンで調べて確認する。2時間
- 第二次 「黄鶴楼送孟浩然之広陵」を読んで漢詩のきまりについて確認した後、口語訳を考える。口語訳を考えていく中で疑問に思ったことをプリントに記入。その問いを持ち寄り、グループで分担してGIGAパソコンで調べ、その結果をプリントに記入させる。調べてもわからなかった問い、調べる中で生まれた問いを共有し、授業の中で考えさせる。3時間(本時 3/3)

### 授業について

国語科では、教科主題「国語科における『探す』ための『学び』」の柱を「問いを立てる」に設定してこれまで授業のあり方を探ってきた。今年度は中学2年の漢文において「問いを立てる」授業のあり方を探りたいと思う。漢文の学習については中学1年で故事成語を書き下し文と口語訳が付いた形で学習しただけで、まだ漢文の世界にあまり触れることができていない状況である。この状況で「問いを立てる」のは難しい気もするが、中学2年で学習するのは漢詩ということもあり、限られた文字数で表現された世界を、「目的に応じて複数の情報を整理しながら、作品にあらわれた言動の意味などについて考えて解釈する」ことに挑戦させたいと考えた。

「黄鶴楼送孟浩然之広陵」は、作者李白が黄鶴楼で広陵(揚州)に向かう孟浩然を送った送別詩で、作られた時期は明らかでない。李白二十八歳、孟浩然四十歳以前の作品とも、李白三十七歳、孟浩然四十九歳の時の作品とも言われる。また、この詩には李白の気持ちは直接には表現されておらず、李白が三月に黄鶴楼で広陵(揚州)に向かう孟浩然を送ったという事情と風景だけが描かれている。よって孟浩然是広陵へ何をしに行くのか、李白はこの時どのような状況で孟浩然を見送ったのか等についてもはっきりしたことはわからない。このような漢詩を一読して問いを立てるように言われると、様々な段階の疑問が出されると思われる。漢和辞典で漢字の意味を調べ、さらにインターネットを使って「黄鶴楼」「広陵」がどのような所なのか、作者李白とこの詩を送られた孟浩然是どのような関係なのかを調べ、「春暁」詩の学習で調べた「孟浩然」がどのような人物かということとも合わせて、わかった情報から新たに生まれた問いを整理して考えていくことが学びを深めることに繋がるのではないかと考える。学習者から生まれた疑問を言語化し、それを使って対話しながら「問い」を解決する過程での思考の深まりを目指したい。問いを共有し思考が収斂するような方策として、漢詩の中で使われている漢字に注目して考えさせようと思う。

また、学習指導要領に示された中学校国語第2学年の目標(2)「論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする」の実現に向けて、学習者が最初に気付いた問いをグループで分担して調べ、調べてもわからなかった問いやわかったことを共有した上でさらに生まれた問いを全体で考えるという学習活動によって「自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう」な体験をさせたい。

## 題 目 送別詩表現の探究

### 本時の目標

- 1 訓読のきまりに従って音読し，古典の世界に親しむ。 (知識及び技能 (3) ア)
- 2 語注やその他の情報を整理しながら，作品にあらわれた言動の意味などについて考えて解釈する。 (思考力，判断力，表現力等 (1) C(1)イ)
- 3 理解したことや考えたことを説明して伝える。 (思考力，判断力，表現力等 (2) ア)

### 本時の評価規準 (観点/方法)

- 1 訓読のきまりを理解し，音読している。 (知識・技能/発表)
- 2 語注やその他の情報を整理しながら，作品にあらわれた言動の意味などについて考えて解釈している。 (思考・判断・表現/ワークシート)
- 3 理解したことや考えたことを説明して伝えている。 (思考・判断・表現/発表)

### 本時の学習指導過程

学習内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
(導入) ・本時の学習活動の確認	・本時の学習活動について説明する。	
(展開) 1 配られたプリントを読む。	・他グループの「調べてわかったこと」を読み，自分たちの問いを確認する。	情報を整理しながら問いの答えを考えている。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)
2 「黄鶴楼送孟浩然之広陵」を音読する。	・一斉読み。	訓読のきまりを理解して音読している。 【知識・技能】(発表)
3 各グループで取り上げた，調べてもわからなかった問い・調べる中で新たに生まれた問いを全体で共有し，グループで考える。	・起句・承句に関わる問いについて確認する。 ・転句・結句に関わる問いについて確認する。	問いの答えを本文に即して考えている。 【思考・判断・表現】(発表・ワークシート)
疑問をもつ	・作者の思いの表れている漢字と，そう考える理由をグループで交流する。	
話しあう		
4 考えたことを発表する。	・いくつかのグループに発表させる。	考えたことを適切に伝えている。 【思考・判断・表現】(発表)
発信する		
(まとめ) ・本時の学習活動のまとめをする。	・各グループで発表された解釈をまとめる。	

## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

「問いを立てる」という国語科で探究してきたテーマを漢詩の学習でも行いたいと考えた。中二で初めて漢詩を学ぶという状況で問いを立てさせるのは難しいので、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」で問いを立てる学習する前に、「春暁」で漢詩の読み方を学習することにした（資料1）。その学習でGIGAパソコンを使って口語訳を調べさせると意識されたものが多く出てきて、例えば「春眠暁を覚えず」の「覚」という漢字自体はどういう意味を持っているのかと学習者に確認してみると「わからない」という反応であった。やはり漢和辞典を使って漢字一字一字を調べていくことも学習として欠かせないと実感した。そこで、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」では、わからないことをパソコンで調べると同時に、漢詩の中に使われている漢字・語句に着目して詩に描かれた世界を探らせていきたいと考えた。また、「問いを立てる」といっても様々なレベルの問いが出てくるのが予想されたので、個人で考えた問いについてグループで分担してGIGAパソコンで調べ、調べてもわからないものについて考えていくという方法を取ることにした。

研究授業（本時）では、最初に事情の説明をしている前半二句に注目させて「だれが」「いつ」「どこから」「どこへ」行くのかという点を、各グループから提出されたプリント（資料2）に書かれたものを使って確認しようと考えた。それから「調べてもわからなかった問い・調べる中で新たに生まれた問い」を共有して、その問いの中から読みが深まると思われる問いに焦点を当てていこうと計画した。実際は「黄鶴楼の仙人伝説はこの漢詩とどのように関わっているのだろう」「二人はその後どうなったのか」「李白と孟浩然の関係性は」等の、詩の背景に向けた問いが多かった。しかし、「なぜ故人を送る詩なのに自然描写が多いのか」のような読みが深まると思われる問いもあったので、それは授業の後半にじっくりと取り組ませようと思っていた。

授業の前半で「黄鶴楼の仙人伝説はこの漢詩とどのように関わっているのだろう」という問いを使って「黄鶴楼」という語に注目させ、「黄鶴楼」という語があるのとないのとでは詩の印象はどう変わってくるかと尋ねた。しかし、予想していた「黄鶴楼」という語があることで明るい印象になる等の答えはなかなか出てこなかった。ここから詩の前半に出てくる他の色（花→赤）に注目させ、後半二句に出てくる「碧」「帆→白」との対比から後半の寂しい・暗い感じ、さらに色以外に作者の思いを読み取ることのできる漢字をあげさせて、それはどんな思いなのか、そう考えた理由も合わせて説明させようとしたのだが、「黄鶴楼」から「明るい印象になる」がなかなか出て来ないところで時間を多く使ってしまい、「なぜ故人を送る詩なのに自然描写が多いのか」についてはあまり時間をかけられなかったことが悔やまれた。

### 2. 研究協議

「黄鶴楼」という語から「明るい印象」がなかなか出て来なかったことについて、指導助言の先生から「調べ学習をするところで黄鶴楼の画像が先に入ってきたことで『黄』という漢字から来る印象が出て来なかったのではないかとご指摘いただき、強く納得した。授業の展開の仕方として、先に学習した「春暁」は音が表現されていた世界であるのに対して「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は色が表現された世界であるという、「春暁」と比較した問い作りという方法もあったのではないかと教授していただいた。さらに研究協議では「優れた問いとは」「問いの生かし方」というテーマで協議をした。その中で「優れた問い」とは「文章を読むために深く考える必要のある国語科としての問い」とであるという定義づけや、問いの評価について、「考えたいと思わせる問い」と言ってもそれは万人に共通のものは無く、個人が時間をかけて解決に向けて探究するのが大切であろうということも共有した。「問いの生かし方」については問いの分類を授業者がすることが多いが、個人で行うかグループで行うかは学習者の状況を見て考えながら「内容・表現・人物・テーマ」等のカテゴリーを与えて学習者にさせてもいいのではないかと提案があった。

漢詩の世界  
春曉 孟浩然

(詞牌文)

春眠不觉晓  
处处闻啼鸟  
夜来风雨声  
花落知多少

(書き下し文)

春眠既を覚えず  
处处啼鳥を聞く  
夜来風雨の音  
花落つこと知り知多少

漢詩の鑑賞

五言絶句

押韻

晓 鳥 少

漢詩の構成

起句 情景を示し歌い起す  
承句 起句を受けて感嘆させる  
転句 けりりと転換する  
結句 全篇をしのぐり結ぶ

○ 作者はどこで何をしているのか

自分の考え  
春の朝に目覚め、床を空

外の啼きを音から想像し、外

側へおぼれたこと

春の眼は心地よいので春を  
起すの音にいな。

(A)題 ( 春 名 詞 )

(口語訳)

(まよひ)

起句 春の夜はまじ明くはない  
春の眼は心地よいので春を  
起すの音にいな。  
承句 けりりと転換する  
結句 全篇をしのぐり結ぶ

起句 春の夜はまじ明くはない  
承句 けりりと転換する  
結句 全篇をしのぐり結ぶ

☆ 作者 孟浩然について  
(調べておぼれたこと)

- 外に縁なく、各地を放浪し、詩歌を詠じた人
- 当時、詩人は朝早く、旅の規律に縛られていた
- この詩は襄陽の鹿門山に隠居していた頃の作品

P132  
P.131

漢詩の世界  
春晓 孟浩然

(詞牌文)

春眠不觉晓  
处处闻啼鸟  
夜来风雨声  
花落知多少

漢名だけの文  
白文

(書き下し文)

春眠既を覚えず  
处处啼鳥を聞く  
夜来風雨の音  
花落つこと知り知多少

漢詩の鑑賞

五言絶句

押韻

晓 鳥 少

漢詩の構成

起句 情景を示し歌い起す  
承句 起句を受けて感嘆させる  
転句 けりりと転換する  
結句 全篇をしのぐり結ぶ

○ 作者はどこで何をしているのか

自分の考え  
春の朝に目覚め、床を空

側へおぼれたこと

春の朝、ふと目  
覚、けりしている

(A)題 ( 春 名 詞 )

(口語訳)

(まよひ)

起句 春の夜はまじ明くはない  
春の眼は心地よいので春を  
起すの音にいな。  
承句 けりりと転換する  
結句 全篇をしのぐり結ぶ

起句 春の夜はまじ明くはない  
承句 けりりと転換する  
結句 全篇をしのぐり結ぶ

☆ 作者 孟浩然について  
(調べておぼれたこと)

- 何れも科擧に挑戦するが合格できず、官職に就けなかった
- 孟浩然より少し後、唐の詩人にならばその人稱や才能にたたる
- 詩を詠じている
- 自然詩(山水詩)の詩人の代表的存在、唐の時代の詩人

漢詩の世界

春曉 孟浩然

博士 孟浩然

春曉 孟浩然

春眠不觉晓

处处闻啼鸟

夜来风雨声

花落知多少

漢詩の種類

五言絶句

押韻

晓 鳥 少

漢詩の構成

起句：情景を示し歌い起す

承句：起句を受けて発展させる

転句：けりりと転換する

結句：全体を締めくくり結ぶ

春曉 孟浩然

春眠不觉晓

处处闻啼鸟

夜来风雨声

花落知多少

○ 作者はどこで何をしているのか

自分の考え 春を晴れた風 縁側で日

調へておかつたこと

孟浩然是人材登用

試験の料亭に合格

格下ですが一生を累

春の朝はふとんの中

で寝ておかつたこと

(A) 題 (番号前)

(日語訳)

春の夜明け方

起句 春の眠さには果て

ない春の眠さ心魂がよさ

承句 あららうららから

鳥の音が聞こえる

転句 昨夜から風が強

雨も降っている

結句 さや花がたぐさ

散らばって

(まじり)

起句

作者

起句

承句

転句

結句

漢詩の世界

春曉 孟浩然

(前説文)

春眠不觉晓

处处闻啼鸟

夜来风雨声

花落知多少

漢詩の種類

五言絶句

押韻

晓 鳥 少

漢詩の構成

起句：情景を示し歌い起す

承句：起句を受けて発展させる

転句：けりりと転換する

結句：全体を締めくくり結ぶ

春曉 孟浩然

春眠不觉晓

处处闻啼鸟

夜来风雨声

花落知多少

○ 作者はどこで何をしているのか

自分の考え 春を晴れた風 縁側で日

調へておかつたこと

故郷の春を思ふ詩

けい人生活の苦しみ

春の朝の景色

思ひがけ

春の朝の景色

思ひがけ

春の朝の景色

思ひがけ

春の朝の景色

思ひがけ

春の朝の景色

思ひがけ

春の朝の景色

(日語訳)

起句 春の夜明け方

春の眠さには果て

ない春の眠さ心魂がよさ

承句 あららうららから

鳥の音が聞こえる

転句 昨夜から風が強

雨も降っている

結句 さや花がたぐさ

散らばって

(まじり)

起句

作者

起句

承句

転句

結句





